

各 位

2024年8月19日

株式会社 山と溪谷社

<https://www.yamakei.co.jp/>

今日もヤギと美味しい草を追う…酷暑と虫との格闘、迫る体力の限界。前代未聞の“ヤギ飼い”イラストルポ『私はヤギになりたい』発刊！


インプレスグループで山岳・自然分野のメディア事業を手がける株式会社山と溪谷社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：二宮宏文）は、『私はヤギになりたい ヤギ飼い十二カ月』（内澤句子：著）を発刊いたしました。



春、五頭のヤギが突き飛ばし合いながら草を食べる「騒然！頭突き食事会」。
 夏、酷暑と虫との格闘でへろへろになりながら、草の海を刈りまわる。
 秋、ヤギたちの大発情祭りを横目に、冬に向けて干し草作り。
 冬、チェーンソーで常緑樹の剪定枝を伐りまくり、ヤギと春を待つ――。

旬を外して草をもっていくと、ヤギから「なぜこんな季節外れなものを？」と呆れられ、一度地面に落ちた草は「それ床に落ちたものでしょ？」とそっぽを向かれる。

マイペースなヤギたちとの魅惑の日々が、豊富なイラストとあわせて語られます。



草を食べると言いけれど

圃内海の大豆畑でヤギを飼い始めて五日目の春を迎えた。春はヤギとヤギを飼う人間にとって、待望の季節である。茶色い枯草がゴッソと残るき地や道端に、柔らかな美味しそうな緑色の新芽が少しずつ増えてくるからだ。

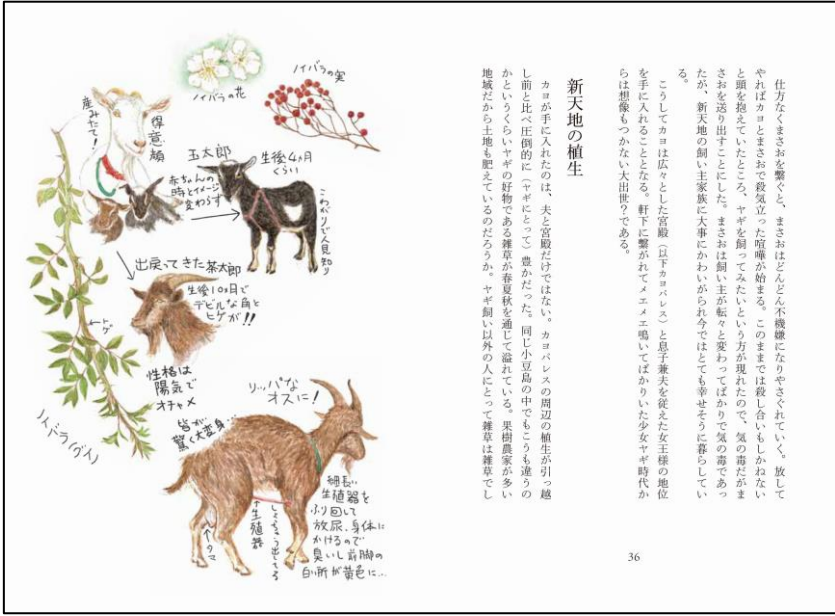
これで、やっと、美味しいごはんの調達が容易になる。早く早く、糞草たちよ、刈り取りやすいた丈に伸びておくれと熱い視線を投げかける。

現在ヤギは五頭いる。名前がカヨ、茶太郎、玉太郎、銀角、半田郎。広さは四〇メートル×二〇メートルほどである。ビニルハウスの陰を借り、側面にワイヤーメッシュを縦横に張り巡らせた中で、自由に歩き回っている。部分的に厩舎を取り付け、寝床を作っている。

最初は一面だけを自宅の軒下に置いていた。そもそもヤギを飼おうと思ったのは家の周辺の雑草を食させたからだった。草刈り機の音が耳で、なんとも静かに雑草ができればと考え、沖繩の友人から分けてもらった。ヤギはブタ同様、ひと昔前までは田舎ではごく普通に頭か二頭、軒下に繋がれていて、畑の残り株や野菜の残葉などで適当に飼われていた。

カヨを中心にして、玉太郎と一緒に行動する。特に舎外に出るときは互いの位置を気にしながら動いている。

耳の向きでわかる



新天地の植生

カヨが手に入れたのは、夫と宮崎だけではない。カバレスの周辺の植生が引つ越した面と比べ圧倒的に(ヤギにとって)豊かだった。同じ小豆畑の中で、こちらも違うからというくらい、ヤギの好物である雑草が春夏秋冬を通じて溢れている。現出農家多い地域だから土地も肥えているのだろうか。ヤギ飼以外の人にとっても雑草は雑草でしかない。大出世である。

仕方なくまきおを繋ぐと、まきおはとどろろと機械になりやさぐれい、放してやればカヨとまきおで殺立った喧嘩が始まる。このまきおは殺し合いも出来ない頭を抱えていたところ、ヤギを飼っていた方が現れたので、気の毒でまきおを返り出すところ。まきおは主が賑々と変わってばかりで気の毒であったが、新天地の飼い主家族に大事にかかわりながら、今ではとても幸せに暮らしている。

こうしてカヨは広々とした宮殿(以下カヨパレス)と息子兼夫を従えた女王様の地位を手に入れることとなる。軒下に繋がれてメメエ鳴いてばかりいた少女ヤギ時代からは想像もつかない大出世である。

生後4ヶ月、こねりてんがかり

生後100日、子豚の角ヒゲが!!

性格は陽気なオキメ

緑色の生殖器を少し放尿、身体は臭い、首脚の色は...



閉居しても駆使して飼育管理をまかす。餌を食べてくれないヤギは、たいていヤギの餌を食べてくれないヤギ。

アケビのつるを葉の古葉まで青くして目玉つ

ヤギたちの大好物

ありがたい...

れてしまうので、ヤギ舎の柵を壊して脱走し、外で腹を満たすようになって、柵を直して脱走できないようにすると、私にアイロントラしてきて首を振り、カヨに見つからないように草を回してくれと言ってくる。そう、現金なもので、カヨにじめられたことで、人間と再び交流できるようになったのだ。あんなに嫌っていた私に取り入ったことで、餌を確保しようという根性は強くなった。

遊園に負けずにサバイバル能力に長けたヤギに育てられて嬉しければ、カヨの弟、左太郎(じま)は最後の子孫が生まれてもオオさまらない。相性が悪いのだからか。

他のヤギ飼いの下で、いじめられずに暮らせるのなら、その方が玉太郎もカヨも幸せなのではないか。

玉太郎を軽トラに載せて、友人のヤギ舎に運ぶ。もし仲良くならこっちは住むことになってもすぐ会えるから。

玉太郎を中に入れた途端、とんでもないことが起きた。臥せていたはずのヤギさんは敢然と立ち上がり、玉太郎に向かって猛攻撃を始めたのだ。呆然と見守る飼い主たち。まる一日立ち上がらなかったのに...

怒れる女王

茶太郎と半の口の周りにできた皮膚炎、口蹄疫の疑いは早々に晴れたものの、感染する可能性があるために一応二頭の隔離は続けた。ファミリーのメンバーを私が勝手にシオツアルすことには、カヨが最も嫌うことの一つである。しかもカヨが一番かわいがる末娘の草を引き離されてしまった。私がどこかに連れて行ってしまった。半の鳴き声が聞こえてくるから近くにいることは理解しているのだが、我慢ならないことには変わらない。

草を運ぶ私に強烈な頭突きをしてくるようになった。この広いヤギ舎に引越して、繋ぎがれずに自由に行動できるようになってから、ほとんど頭突きしなくなったのに。



知り合いの山の中の土地にくま中の道を築いている竹持は厳格にしているとほとんど伐採していないとされたので、冬の何もない時期には驚かなくさんついていな竹を引きすって軽トラ御台から降ろしている、ヤギ舎の中からは「あなたも今日竹を引くのか」と舌打ちが聞こえてくる。竹が割れ出て来る。ヤギは決してわかりやすい感情表現をする動物ではないが、好物の赤芽相や輪をみっしり履戴した軽トラを乗り付けたとき、竹を載ってきたときでは明らかにテンションが違ってくる。竹を積んできたのがわかると寝台に寝そべったま入り口にも来ない。

竹も餌も毒ではないはずなのだが、うちのヤギたちの人気ランキングは常に監視この青物が枯れている一月だけは、黙って食べてやるかという観で、テンション低くモリモリと食べる。これが三月に入らうものなら「もう春なのだから」とさっぼを向かれ、カヨに至っては竹しか持っていないことを知る私に頭突きをしてくるのだ。



なるほどと思いつつ、個人でヤギを飼養している場合、ヤギの体重を量る手段を持たない人がほとんどなので、初手から踏いてしまおうではないだろうか。私の場合はイノシシやシカを閉じ込める場に体重計があるので、あのシカが五〇キロだったからだいたいこれくらいだろうな、と推測するのみ。

草の水分量もさっぱりわからない。一度でも畜産学や獣医学を学んでいけば、要領を通してこのような数値が感覚に叩き込まれるのだろうけれど。

直接参考になったのは、ウマのボディコンディションだ。あばら骨や腰骨の浮き上がり具合などで肉と脂肪のつき具合を見る。あばら骨が出ていたら明らかに瘦せすぎだ。おなかの膨らみ具合を感察しなら「だいたいこれくらいかな」という量を探っていく。うちの場合は生草ならば一日で「頭につき二〇サイズの段ボール箱一杯半くらいだろうか。木の枝や干し草も混ぜるし、季節によって水分量も変わっていろいろに思えるのであくまでも目安である。

それと知っておきたいのは、草を食べたお腹は左右均等には膨らまないということだ。何も知らないと病気になるのかと驚かせる人もいる。ヤギの第一胃は左側にあるので食後すぐには左側だけ膨らんでいく。わかっていれば慌てることもない。以前にも書いたが多頭飼いをしているのが、強者がどうしてもたくさん食べ

■内容

- 四月／卯月嬉しや待望のご馳走を刈りとる
- 五月／皐月あおめき浮かれて噛め呑め若葉は甘露
- 六月／緑深まり葉も茎も大きく硬く虫育ち駆け抜ける水無月梅雨は干草
- 七月／豪雨にも耐えて文月カヨパレスからむし刈り取りかたつむり転々
- 八月／繁る葉の月酷暑でもヤギの食欲衰えず掴み引く蔓
- 九月／長月ながく酷暑終わらず夏枯れのあと芽吹き花咲きまるで春
- 十月／天高くヤギ盛る秋酔えば雌雄人獣神無く月仰ぐ
- 十一月／山眺め色づき落ちゆく葉に焦り霜降る日まで刈り回れ
- 十二月／食べ尽くせ小春の草々霜降るまでの美味や愛おし
- 一月／霜枯れて草がなくても大丈夫山の照葉があると山羊啼く
- 二月／青葉恋しやうづきのヤギ飼い山駆け巡り集める照葉
- 三月／モリモリと萌え出る美味や草伸びて枯らす無粋も湧く
- 付章／目を凝らし耳を澄ませる十六夜照る月笑むヤギ潜むイノシシ

■著者略歴

内澤旬子（うちざわ・じゅんこ）

1967年、神奈川県生まれ。文筆家、イラストレーター、精肉処理販売業。『身体がいいなり』で第27回講談社エッセイ賞受賞。著書に『世界屠畜紀行』『飼い喰い 三匹の豚とわたし』（角川文庫）、『ストーリーカーとの七〇〇日戦争』（文春文庫）、『内澤旬子の島へんろの記』（光文社）、『カヨと私』（本の雑誌社）など多数。2014年に小豆島に移住し、現在は、ヤギのカヨ、茶太郎、銀角、玉太郎とイノシシのゴン子、ネコの寅雄とともに暮らす。

■書誌データ

書名：『私はヤギになりたい ヤギ飼い十二カ月』

著者：内澤旬子

発売日：2024年8月19日

定価：1980円（本体1800円＋税10%）

264ページ／46判／4色刷

<https://www.yamakei.co.jp/products/2823064010.html>

【山と溪谷社】 <https://www.yamakei.co.jp/>

1930年創業。月刊誌『山と溪谷』を中心とした山岳・自然科学・アウトドア・ライフスタイル・健康関連の出版事業のほか、ネットメディア・サービスを展開しています。

さらに、登山やアウトドアをテーマに、企業や自治体と共に地域の活性化をめざすソリューション事業にも取り組んでいます。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証スタンダード市場9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社山と溪谷社 担当：綿

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング

TEL03-6744-1900 E-mail: info@yamakei.co.jp

<https://www.yamakei.co.jp/>